



春の農作業と豊作を祈る行事

〈はじめに〉

寒風にさらされた麦踏みも終わり、まぶしい陽光に若葉が輝くと春の農作業が始まります。

今回の季節展示では、市内に残された貴重な資料をご紹介します。

〈稲作の始まり〉

蓮田市の米作りが確認された遺跡の発見は現在ありませんが、埼玉県内では熊谷市北島遺跡に弥生時代後期の水田跡が発見されています。これより古い弥生時代中期にも春日部市須釜遺跡では土器に稲籾痕が観察され、熊谷市池上遺跡などでは炭化米が発見されています。

市内の米作りも、同じ頃から遅くとも弥生時代の終わりには始められていたと推測されます。

〈年貢の納入と年貢割付状〉

江戸時代の農民はさまざまな年貢や諸役を負担していました。幕府直轄領・旗本知行所など支配、^{しょうあく}掌握の差はありますが、おおむね石高（^{こくだか}検地によって決められた耕地の生産高）を基本とし村高に応じて課税されていました。

年貢の納入は、領主から提示される年貢割付状によって命じられます。年貢割付状とは、知行地の村に対して徴収する年貢を割り付けたものです。原則的には一つの村に対して一通出されますが、^{あいきゆう}蓮田市内の村々では、旗本支配の相給村（一村に領主が二名以上いること）が比較的多く、各々の領主から名主あてに出されることもありました。

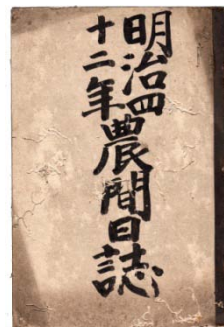
年貢割付状の記載内容は様々ですが、基本的には表題、村高、納高、納入期限、発給年月日、発給者などが記されています。

〈年貢の皆済〉

年貢割付状によって決められた年貢を村々は領主に納めることとなりますが、作物によって収穫の時期が異なることがあります。納入する時期によって夏成、秋成などといいますが、このように何回かに分けて年貢を納入する場合には、納入ごとに村は領主から受領書を受け取ることとなります。この分割して受け取る受領書を通帳または小手形といい、全ての年貢を皆済したときに、それまでの小手形と引き換えに、領主から年貢皆済^{ねんぐかいさい}目録^{もくろく}が与えられます。

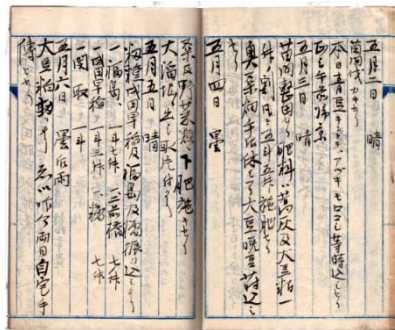
〈農家の日記〉

村々で暮らした農民の日常生活はどのようなものであったか、よくわかる資料として日記があります。今回の展示では、明治42年（1910）年の『農間日記』をご紹介します。



元旦から始まり、一年の農作業を記しています。日々の天気や作業内容、肥料の量などがわかります。また、養蚕を行っていました。

（本橋家文書）



十月二十六日
ハルピンにて、伊藤博文が暗殺された事が記されています。

～市内に残されている最も古い～

年貢割付状・寛永十年（1633）
年貢皆済目録・延宝七年（1679）

『蓮田市史 近世史料編Ⅰ』
をご覧ください。

明治42（1910）年って！どんな年？

政治：第13代 内閣総理大臣 桂太郎

経済：生糸輸出世界一（中国を抜く）

物価：銭湯代（東京）2銭・床屋代（東京）10銭

社会：東京の自動車台数 38台、ビアホール大流行



春の農作業と豊作を祈る行事

《豊作を祈る》

榛名講（はんなさまともいいます）は、群馬県高崎市市の榛名山にある榛名神社に参拝する講です。この神様は、農家の神様で、特に雹除け・嵐除けの神として信仰を集めてきました。農家の人たちは、春（3月の末か4月頃）はるばると榛名神社に2、3人の代表を送り、神聖なお札をいただきてきました。このことを代参講と呼んでいます。そのお札を篠竹にはさみ、畑や村境に立てて嵐避けを祈りました。村境に立てるお札を大札ともいい、隣村との道切りとして村に疫病などの侵入を防ぎました。雹や強い風が吹けば農作物は大きな被害を受け、作物が実りません。自然の脅威に対して神仏に祈り、豊作を願いました。

遠く離れた地にある神仏に、村から代表を立てて参詣する代参講は、蓮田では御嶽講、榛名講、大山講、雷電講、宝登山講などがありました。代参はたいへんな仕事でしたが、豊作を願うとともに娯楽のない当時は楽しみな旅でもあり、また大人への仲間入りの行事の一つでもありました。

参考文献：『蓮田市史近世資料編Ⅰ』『〃通史編Ⅰ』
『【いまに伝える】農家のモノ・人の生活館』

秋葉講（あきばこう）（アキハサマともいいます）さいたま市西区にある秋葉神社は、火除盗難除けの神様として広く信仰されていました。頂いたお札は、トボグチ（玄関）の内側やカマダン（カマド）・ヒジロ（平炉）に貼り、家を守りました。蓮田では、個人や数人の仲間で参拝することが多かったようです。市が立つ4月18日と12月18日の大祭で、果樹・野菜の苗や種、それから農道具の鍬やマンノウ・鎌などを買いました。刃物は、「越後の刃物」といって新潟県から来て店を開いていたそうです。



（一）さいたま市秋葉神社



（宝登山神社御札）

【 お聞かせ下さい！！ 】

昭和の頃の蓮田の事をご存じありませんか？
村のこと・町のこと・農作業のこと・戦争体験など
さまざまな事柄のお話をお聞かせください。

春から初夏にかけての農作業と村の行事—昭和30年代を中心として—

時期	農作業	信仰行事・村の行事	時期	農作業	信仰行事・村の行事
3月～4月中旬	田うない・苗代づくり・麦踏み	<small>はるなこう</small> 榛名講 3月末～4月 群馬県榛名神社に参拝 (ヒョウ・嵐除け)	4月下旬～6月	クロツケ・シロカキ・野菜の種まき	<small>ひやくまんべん</small> 道切り・百万遍 4月～5月 (伊豆島・笹山・長崎・黒浜等)
		<small>まかせ</small> 馬寄せ 3月末～4月 寺の縁日に馬を連れて行く (馬の安全)			<small>いたくらこう</small> 板倉講 <small>みたけこう</small> 御嶽講 4月末～5月 群馬県板倉雷電神社に参拝 (火事・雷除け)
		<small>みちぶしん</small> 道普請 4月初め 村で協力して道の整備をする			モメンボーサマ 5月15か16日 この日までに木綿の種をまく。綿の花のような飾りを作り、豊作を祈る
		フセギ・お獅子様 4月～5月 間戸より北が多い 加須市玉敷神社から獅子頭などを借りてきて各家を回る (疫病除け)			六日うどん 7月6日 収穫した小麦で「六日うどん」を作り仏様や神様に備え豊作を感謝する
		<small>あきばこう</small> 秋葉講 4月18日 さいたま市秋葉神社に参拝 (火事除け・野菜の種を買う)	6月～7月	田植え・麦刈り	サナブリ 田植えのあと 田植えの最後に苗を2束家の荒神様に供える

注「蓮田市の年中行事」ほかより作成。下線を引いたものについては、現在は見られなくなっています。講については、代表者が行く代参講から、個人で参拝する形に変化しています